

地名の由来と史跡と文化財

三和地区（養老編）



三和養老地区磯ヶ谷八幡神社

上総の国いちはらの歴史を知る会

（ふるさと市原をつなぐ連絡会会員）

令和2年12月編集・製作

まえがき

人類は、今から700万年前にアフリカ大陸でサル類（チンパンジー）から枝分かれして「二足歩行の人類」となった。その後徐々に進化し約10万年前に一部の人類がアフリカを出ていくつかの人種に変化し大陸に住み着きました。

旧石器時代（先土器時代・無土器時代）～紀元前1万4千年前頃、我が国にも大陸から渡り来て住み着いたと思われます。その頃の日本列島はユーラシア大陸と地続きであり、彼らはマンモスやナウマン象、大角鹿などの大型動物を追いかけて日本列島にやってきた。食料調達には、主に狩猟や採取を行い、石を打ち砕いて造られた打製石器を使用した。食器などはなかった。

私たちの住みます「いちはら」にも人が住み始めて3万年の歳月が過ぎ、いくつかの大規模な集落が出来てきました。そして弥生時代になると大陸から稲作が持ち込まれ、肥沃な土地では稲作が行われるようになり、権力者による統治が始まった頃と思われます。その中で、大変興味深い説があります。縄文時代の頃に、日本列島に太平洋南方より現ポリネシア語（マオリ語）を話す民族が渡来し、住み着いた人たちが初めて地名を付けたという説です。それらの古い時代に付けられた今とあまり変わらない発音で、今も多く使われています。その中でも「古事記」や「日本書紀」などの古典や日本語の中にも、多くの現ポリネシア語源の言葉を見ることができますが、文字で表すものはありませんでした。

しかし弥生時代になると朝鮮半島より渡来した人により漢字が伝わって来て、今まで言葉で伝えられていた呼び方に、適当な漢字を当てはめたものです。例えば、日本の象徴の山「富士山」は、マオリ語では「フチ（HUTI）」「引き上げられた山、または釣り上げられた山」という意味となります。そして、浅間神社は熊野神社と並び最古の部類の神社とされていますが、富士山の神を祀る「式内富知（ふち）神社」が最も古い神社とされています。

縄文時代には、争いごとは少なかったと言われていたとされていますが、水稻耕作が始まった弥生時代になると「定住民」が増えることにより、土地の利権争いが起き、古くから住んでいた縄文人は弥生人に圧倒されることになった。但し、古くからあった地名すべてが「現ポリネシア語（マオリ語）」という訳ではありません。

北海道には「アイヌ民族」のアイヌ語があり、沖縄には「琉球民族」が話す「琉球語」が存在する。

また、それぞれの地方には「方言」があり、その地方特有の言葉があります。

参考ですが、古来より「サ」が付いた名には「神様」に関係したものが多く見られます。

例えば、神社の敷地内は「境内（ケイダイ）」という聖域と一般の地を分ける「さかいめ」があり、神様が山から「さと（里）」に下ってくる道を「さか（坂）」と言います。また、祀りの際の神様の貴賓席を「さじき」と呼び、庶民は地面の芝に座ったので「芝居」という言葉が生まれたと言われています。

今回は、上総国市原郡内の中央部に位置します「三和地区」の地名の由来と、その地にある史跡や文化財などを紹介します。



市原郡内の三和地区の地名の由来

千葉県の名の由来

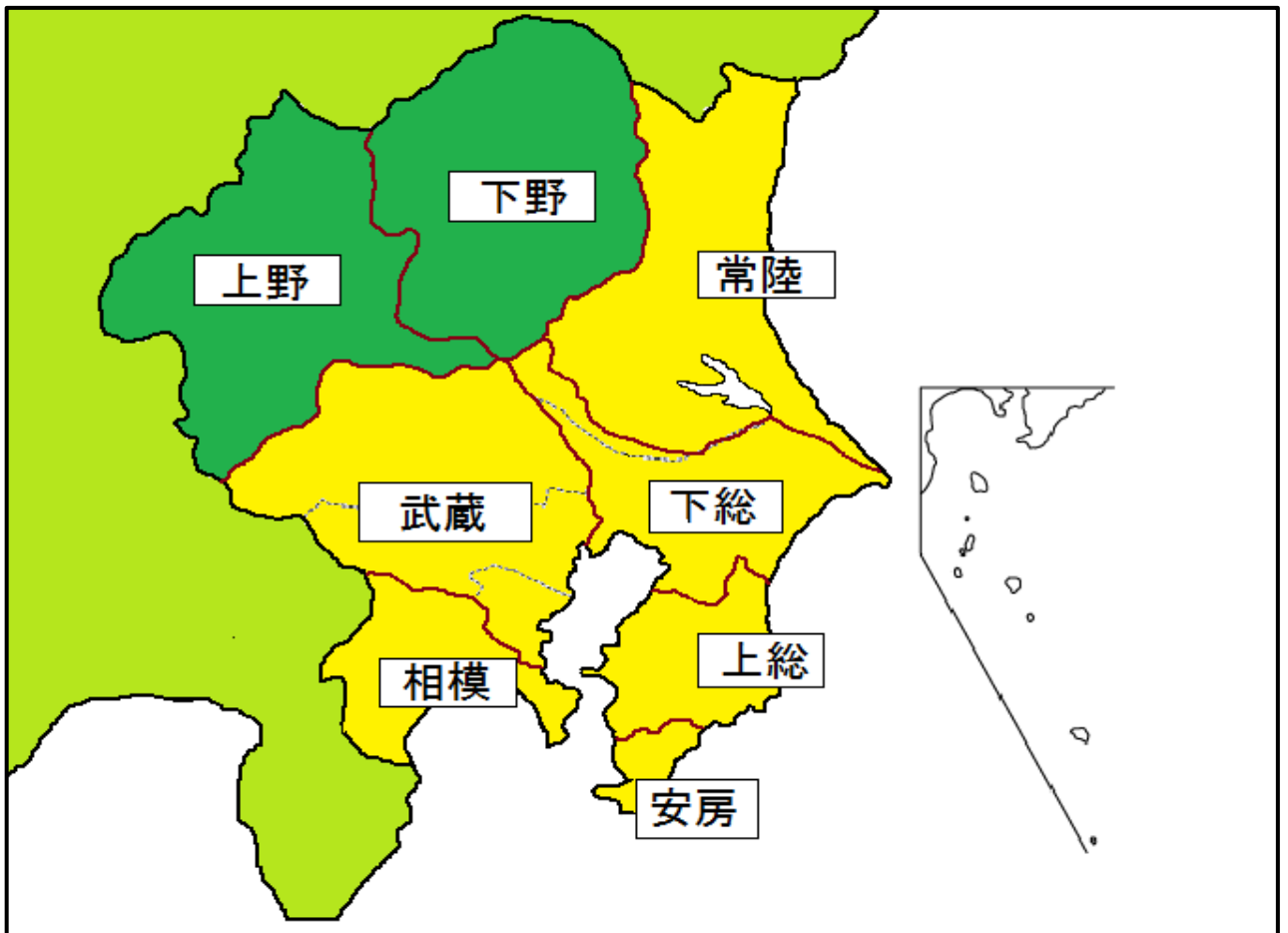
千葉県は江戸期までは総国（ふさのくに）と呼ばれており、茨城県南西部の一部と埼玉県東部の一部も含まれていました。この地域は7世紀後半の令制国の建置により、上総国と下総国が成立しその後養老2年（718年）に上総国から4郡が分かれ安房国が誕生した。

「総」の語源は、「古語拾遺」によると、「天富命（あまとみのみこと）」が安房国から齊部氏を率いて東上し、麻を植えたところ、良い麻が生えたので、総（麻）の国としたという説と、「風土記逸分」によると「総」とは木の枝を言い、昔この国に大きな数百丈のクスの木が生えていたが、大凶事との占いが出たので切り倒したところ、南に倒れたので、上の枝を「上総」と言い、下の枝を「下総」と言ったと記されているが、いずれも根拠が弱く、他にも「塞ぐ」からで「山などが周囲にある土地」や「ふし」の転訛で「高い所」の意味する説などがあるが、現在では朝廷の都に近いほうが上であり「上総」と付けられたという説が正しいと考えられる。

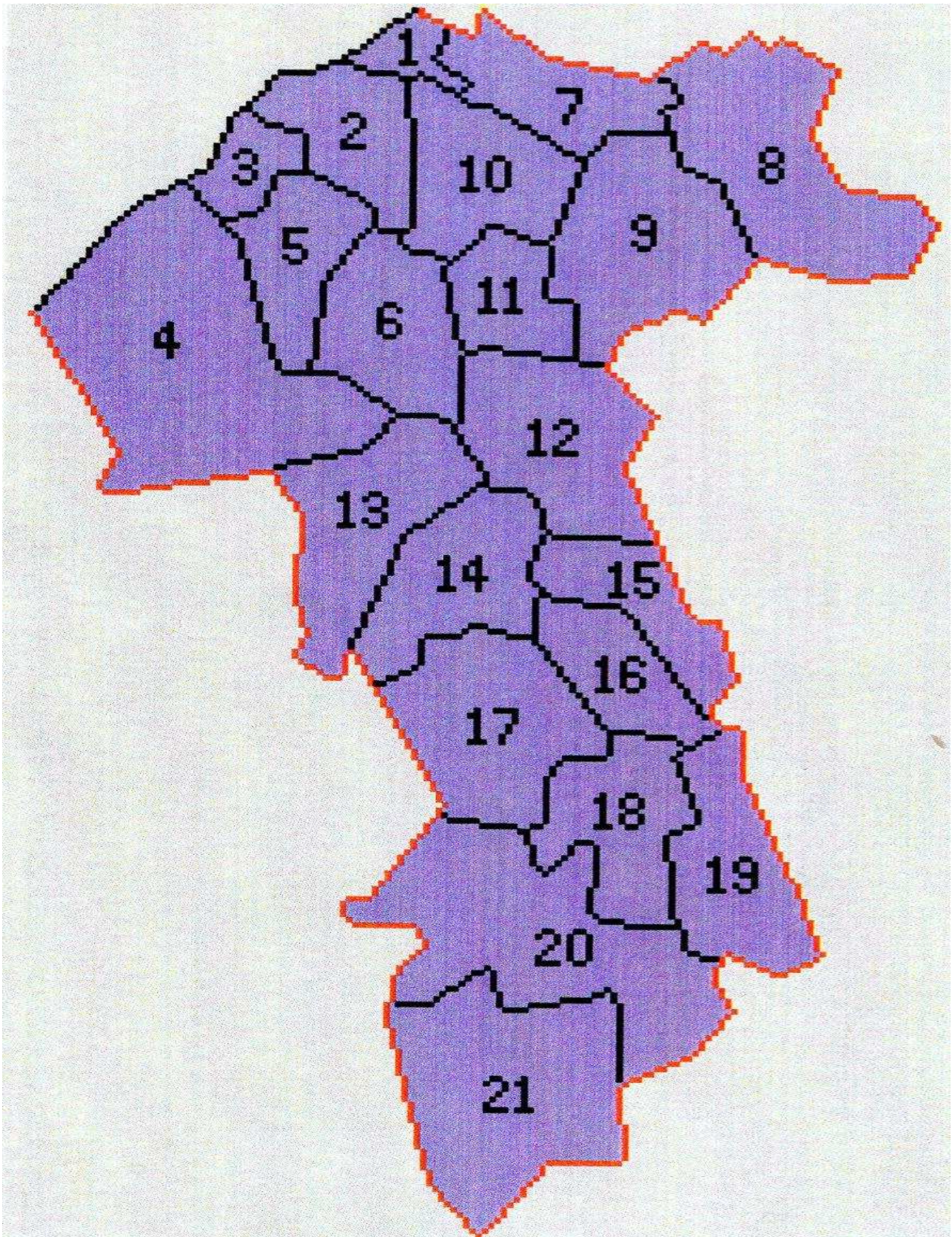
なお、「ふさ」はマオリ語で「フ・タ」で、「浸食された丘陵がある地域」の転訛と訳します。

「和名抄」に、下総国相馬郡布佐（ふさ）郷があり、現我孫子市東端の布佐の地域と思われる。上総国には、市原（国府所在地）・海上・畔蒜（あびる）・望陀（ぼうだ）・周淮（すえ）・天羽・夷隅・埴生・長柄・山辺・武射の11郡がある。

下総国には、葛飾・千葉・印旛・埴生・匝瑳・海上・香取・相馬・猿島（さしま）・結城・豊田の11郡が、安房国には、平群（へぐり）安房・朝夷（あさひな）・長狭の4郡で国造りがされた。市原郡は「伊知波良」と書き、中世には市西郡と市東郡に別れ、山田郡も郡域内にあったと思われます。国府の所在郡でもあり郡内には、海部（あま）郷・市原郷・湿津郷・江田郷・菊麻郷・山田郷の6郷があった。江戸期には、このほかに、海北郷・佐是郷など、旧海上郡域も併合された。



市原市の地区別地図



町村名	1・八幡	2・五井	3・千種	4・姉崎	5・東海	6・海上	7・菊間
	8・市東	9・湿津	10・市原	11・市西	12・養老	13・戸田	14・牛久
	15・内田	16・鶴舞	17・高滝	18・富山	19・平三	20・里見	21・白鳥

市原郡内地名の由来と神社、仏閣、史跡、文化財の紹介

※ アンダーライン部は、古代マリオ後（現ポリネシア語）での表現を日本語に転化したもの。

上総国市原郡の6郷

1・海部郷（あまのこう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「安万」東急本は「阿万」と呼ばれており、海士有木に比定されている。漁業、航海を中心とした職業的品部に由来する地名。

2・市原郷（いちはらこう）

平安期にあった郷で、市原・能満・門前・郡本付近に比定されている。地名の「イチ」は集落の意味、または「稜威」（いつ）の転嫁で美称か。櫟（いちい）の繁茂する原野の意味とする説もある。

※藤井は、万治2年（1659年）に郡本より分村したのと、山田橋は元は山田郷に属していたので、市原郷には含まれなかった。

3・湿津郷（うるつこう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「宇流比豆」、東急本では「宇留比豆」。市原市潤井戸付近に比定される。地名の由来は、「ウルヒ（湿）・ツ（場所）」と考えられる。村田川の上流で、豊富な湧泉があることから命名された地名と思われる。

4・江田郷（えだこう）

奈良期にあった郷で、高山寺本・東急本ともに訓は「衣多」。市原市吉沢付近は古くは江田郷と称したと伝えられ、当郷の比定と思われる。他に、市原市八幡付や市原市江古田などを含む養老川上流右岸の広大な地域を郷域としている。

5・菊麻郷（くくまこう）

平安期にあった郷で、東急本では「菓麻」と書く。訓は、高柳寺本・東急本ともに（久々万）。

市原市菊間付近に比定されている。地名の由来は、「くくまった（包み込まれたような）・地」の意味

6・山田豪（やまだこう）

平安期にあった郷で、東急本の訓は「夜万多」。市原市山田付近に比定されている。

地名の由来は、「山を開いて田を作ったところ」の意味か、「山間の田」あるいは「山処（やまど）」の転嫁で、「山のある処」とも考えられる。

養老地区（新巻・磯ヶ谷・大桶・川在・土宇・櫃挾・二日市場・松崎・山田）

概説

この地域の地名の内、文献上で登場する最古のものは、白鳳年間（680年代）に天武天皇が八幡神社を造営されたという「磯辺の里」すなわち現在の磯ヶ谷であり、後の元亀の頃（1500年後期）に松崎と共に磯ヶ谷郷と称した。その他は山田郷に属していた。明治維新前はほとんどが諸旗本の支配下であった。

明治元年より同8年に至るまでのこの地の沿革は、磯ヶ谷、山田、松崎のほかは定かではない。松崎は、明治元年4月、上総飯野藩主保科弾正へお預けとなり、同年7月に宮谷県の管理に移された。また、磯ヶ谷、山田は、明治元年7月に房総知県事柴山文平の管理に属し、同年11月松崎と共に鶴舞藩井上正直の支配となった。明治4年の廃藩置県に伴い、鶴舞藩、同年11月に木更津県の管理となる。同6年に千葉県の新設となる。明治11年の部区町村編制法により磯ヶ谷は松崎、櫃挾と、土宇村は二日市場、山田と、大桶村は川在、新巻とそれぞれ村連合を結成し、千葉市原郡役所に属した。

養老の地名は、関係諸村がいずれも養老川に沿っていたため、古くから養老郷と称したところからきている。昭和30年の町村合併促進法により、市西村、養老村、海上村が合併し、三村和合の願いを込めて「三和町」と名付けた。



新巻（あらまき） 神社・寺院・史跡・城址 熊野神社・医王山正福寺（曹洞宗）

荒巻とも書く。江戸期は荒巻村。地名の由来は「あら（荒）・まき（曲）」で、山崩れにより川の流路が変わり曲流するようになったことを指したのか。

熊野神社（くまのじんじゃ）

所在地 市原市新巻字西原38番地

創建時期 創建年代不詳。

祭神 伊弉册命・速玉男命・事解男命

宮司 露崎 のり子

由緒・伝説 旧村社・創建年代不詳・扁額に特殊な「熊野」の文字が使われている。明治43年（1910番地）に御霊神社（字下夕谷：大山祇命）を合祀。



熊野神社の拝殿正面



熊野神社の扁額が飾られた鳥居



拝殿前の石燈籠



熊野神社の本殿と幣殿



拝殿入口に下がる鈴



境内に置かれた奉納手水鉢



拝殿の右側風景

医王山正福寺（いおういんしょうふくじ） 曹洞宗

所在地 市原市新巻字西原28番地

創建時期 天文年間（1532年~1555年）

創建者 種峰良播大和尚

本尊 不詳

住職 野口 博道

由緒・伝説 天文年間に開山されたと言われているが、



正福寺の本堂正面

火災により焼失したため正確な創建時期は不明。明治19年11月にも火災により本堂及び庫裡が焼失した。明治28年10月に茅葺き屋根にて再建された。その後茅の葺き替えの材料の入手困難になり瓦ぶき屋根に改築された。



境内入口の参道にある門



時代を感じるいちようの大樹。



本堂入り口にある扁額



歴代住職の墓地



参道入口右側に安置される石仏



本寺の歴史を記した石碑

磯ヶ谷 (いそがや) 神社・寺院・史跡・城址 八幡神社・(磯ヶ谷城址)

磯谷とも書く。江戸期は磯ヶ谷村。里伝によると、白鳳2年(674年)には磯部の里と称していた。

地名の由来は、「いそ(岩が多く露出している所)・が(接続詞)・や(谷)」で、岩が多く露出した傾斜地という意味。磯ヶ谷には寺院がない。なぜなのか?

磯ヶ谷城址でもあると言われている。

八幡神社 (はちまんじんじゃ)

所在地 市原市磯ヶ谷字石原1498番地

創建時期 白鳳2年(650年)

祭神 誉田別命

宮司 露崎 のり子

由緒・伝説 旧指定村社。男千本。白鳳2年に靈験があることを聞いた天武天皇から正八幡宮の勅号と

神田千町の賜券を授かる。代々神職を継承してきたのは柏家で、享保7年(1722年)一品親王の廳下文にて神主の烏帽子狩衣を許された。大正2年(1913年)日枝神社(字山王:大山咋命)火防神社(字大六天:火産靈命)水神社(字戸出貫:水早女之命)を合祀。境内に宝暦5年(1755年)造の聖徳太子石造の他、三社神社(速玉男之命・事解之男命・能加夫呂岐櫛氣野命)甲良神社(武内宿祢)・八坂神社(建速須佐之男命)若宮八幡神社(大鷦鷯命)天満宮(菅原道真)がある。



磯ヶ谷八幡神社の拝殿正面



磯ヶ谷八幡神社の鳥居と参道



本殿と拝殿をつなぐ幣殿



藤原道真を祀る天満宮



三大神社の祠



境内の手水鉢と建屋



焼失した本殿再建の記念碑

大桶（おおおけ） 神社・寺院・史跡・城址 日枝神社・軍荼利山 明王院 甘露寺（天台宗）・大桶城跡
江戸期は大桶村。地名の由来は「おお（美称）・ほけ（山崖）」の転訛で、急斜面の山が崩壊している地という意味。

日枝神社（ひえじんじゃ）

所在地 市原市大桶字平ノ臺275番地
創建時期 不詳
祭神 大山咋命
宮司 露崎 のり子
由緒・伝説 旧村社・創建年代、由緒不詳・元は大桶神社



軍荼利山 明王院 甘露寺（軍荼利さんめいおういんかんろじ） 天台宗

所在地 市原市大桶480番地
創建時期 江戸中期で、現在の本堂は享保3年（1718年）に建立された。
本尊 不詳
住職 石井 晃延
由緒・伝説 軍荼利山 甘露寺は、江戸時代の中期に比叡山の行者によって開創された寺院。現在の本堂は、享保3年に建立された。境内に隣接する城跡山には奥の院があり、本尊は軍荼利明王です。



享保3年の建立と言われる甘露寺本堂

不動名王を中心とする五大明王の南方に祀られることの多い軍荼利明王ですが、本寺では珍しく単体で祀られており、江戸時代には上総四軍荼利の一つとして信仰を集めたと言われている。



境内入口の甘露寺の標柱



本堂入口にある扁額



本堂に祀られる阿弥陀如来仏像

大桶城跡 (おおおけじょう)

所在地 市原市大桶城廻・城跡山

築城時期 不明 (戦国期と思われる)

築城主 地元の土豪と思われる

説明 大桶城は、葉木城の3kmほど南にあり、葉木城から「うぐいすライン」を南下して行くと城址の麓に着く。城址は大きく2つに分かれており、甘露寺の東側の比高40mほどの山を城跡山、その南側の比高40mほどの山を城廻山と呼んでおり、「城郭体系」ではその両方に城があったとされている。

城廻山の山頂は長軸40mほどの単郭となっており、台地基部の側には深さ2m余りの堀切があり、その堀切は北側から西側にかけて、帯曲輪となって巡っている。この帯曲輪は1郭の城壘を切岸加工した際に生じたものと思われる。基本はこの単郭だけの城であり、堀切の東南側は、ほとんど自然地形のままである。

堀切は南側では下に落ちて行き、下の横堀と接続する。この横堀は台地基部側に延びて、そこでさらに堀切を形成している。また西側には緩やかに傾斜して行き、南西側下でちょっとした空間を造り出している。ここから先の堀は堅堀りとなって行き、山麓の下まで伸びている。こうした形状からして、この堅堀りや横堀は登城用の通路として用いられていたと思われる。遺構はこれだけで、大桶城は極めて単純で小規模な城郭と思われ、かなり古い時代の城の物と思われる。

一方、谷戸部を挟んで北側には城跡山がある。甘露寺の奥からほとんど一直線に山頂に上る石段が付けられており、山頂には軍荼利四天王を祭った社殿が鎮座している。この部分は、削平地となっているが、土塁や切岸などの加工もほとんどないが、背後に50mほど進んだ所に深さ2mほどの堀切状の部分がある。西の城内側が高くなっており、一応堀切がある。城跡山と城廻山の間には谷戸部が入り込んでおり、非常に連携が悪いので、関係の深い城と考えにくく、時期の異なる城か、別々の機能を持った城と考えられる。



1 郭東側の 2 m ほどの堀切



1 郭南側の横堀跡



横堀西側のテラス部分



山麓まで続く 2 m ほどの堅掘



城跡山尾根基部側にある堀切



軍荼利四天王の祭られる社殿

川在 (かわざい) 神社・寺院・史跡・城址 大宮神社・西福寺

江戸期は川在村。地名の由来は、「かわ(川)・あら(荒)」の転訛でしたもので、川沿いの崖地という意味。

大宮神社 (おおみやじんじゃ)

所在地 市原市川在字宮の腰1032番地
創建時期 不詳
祭神 大宮姫命
宮司 露崎 のり子
由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒不詳。
近年遷宮された。



大宮神社の本殿建物



参道入り口にある鳥居



出羽三山の供養塚



時代を感じる手水鉢

西福寺 (さいふくじ) (曹洞宗)

所在地 市原市川在491番地
創建時期 不詳
本尊 不詳
住職 松本 英明
由緒・伝説 不詳



西福寺本堂



本堂の左側を写す



本堂右側には石仏が鎮座



本堂左側には梵鐘が保管

土字（つちう） 神社・寺院・史跡・城址 玉崎神社・河間山東林寺（曹洞宗）

鎌倉期に土字郷があり、当時土字郷は不輸祖田だった。江戸期は土字村。

地名の由来は、「つち（泥）・う（生）」で、湿地という意味か。または「つちうき」の転訛で、泥の多い低湿地を指したもののか。

玉崎神社（たまさきじんじゃ）

所在地 市原市土字字堰上 1479 番地
創建時期 応永 24 年（1417 年）に創建された。
祭神 前玉姫（現在は玉依姫命）
宮司 露崎 のり子
由緒・伝説 旧村社。通称玉前さま。応永 24 年の創建で、

北条高時の三男・新七郎が当地に下り、吉野と名乗って大和国多武峰を持参した千手観音をご本尊にして奉斎したのが創始という。

吉野家は草分けの一家となり、現在当地で吉野姓を名乗る人の祖先と言われる。

一説には上総国一宮よりの勧請ともいわれる。明治 26 年（1893 年）日精神社（大山咋命）・大宮神社（大宮姫命）・月夜見神社（字南埴木：月読命）・石烈神社（石擬止命）蔵王社（伊弉諾命）・淡州神社（市杵島姫命）・熊野神社（伊弉册命）・八幡神社（誉田別命）・琴平神社（金山彦命）・天満神社（菅原道真）・道祖神社（猿田彦命）・秋葉神社（大山祇命）・愛宕神社（彦火火出見命）・巖島神社（市杵島姫命）・御嶽神社を合祀した。境内に八坂神社と子安神社の社がある。



保護用の建屋の中に拝殿と本殿が



参道と鳥居の先に石階段



子安神社の祠



本殿の中にある内宮



本殿と拝殿を繋ぐ幣殿



境内の右側には手水鉢



境内の左奥にある祠

河間山東林寺 (かわまさんとうりんじ) 曹洞宗

所在地 市原市土字 1103 番地 1

創建時期 天文元年 (1532 年)

本尊 不詳

住職 征矢 貴晃

由緒・伝説 開祖守函和尚草創の際は、小一院に

過ぎず、本村字河間にあったが、

元禄年中興開基「伊丹播磨守」の子

駿河守勝重が当山五世行芝快周和尚に帰依して、田畑及び山林十町四方を喜捨し伽藍をこの地に移した。その後文政年間に災害に合ったが文化 10 年に伊丹氏により再建された。

昭和 51 年 (1976 年) 12 月 30 日に火災に合い、建物や寺宝などを焼失した。

その後本堂及び庫裡、薬師堂などは再建された。



東林寺の本堂全景



山門入口の寺標の石柱



本堂の入口と扁額



境内には薬師如来像が鎮座

櫃狭 (ひつば) 神社・寺院・史跡・城址 櫃狭神社・満光院 (真言宗豊山派)

江戸期は櫃狭村。樋狭村とも書く。里伝によれば櫃狭間であったという。

地名の由来は、「ひ (ひび割れ)・つば (崖)」で、ひび割れたような狭い谷のある崖地という意味。

櫃狭神社

所在地 市原市櫃狭字宮の山 143 番地

創建時期 不詳

祭神 大己貴尊

宮司 露崎 のり子

由緒・伝説 旧村社。通称櫃狭おみや。創建時期、由緒不詳。

元は山王大権現で、山王神社・日枝神社と呼ん

でいたが、櫃狭神社と改称された。



櫃狭神社の本殿と狛犬石造



境内に続く長い階段の先に本殿



境内に本殿が鎮座している



境内にある千手観音の石像

満光院 (まんこういん) 真言宗豊山派
 所在地 市原市櫃挾291番地2
 創建時期 不詳
 本尊 不詳
 住職 金子 研一
 由緒・伝説 不詳。 現在本堂等は見当たらないが、
 町会の集会場が建っている。



境内に建つ町会の集会場



入口左にある墓地。満光院の墓地か



弘法大師の石像があり、以前の住職の墓地か

二日市場 (ふつかいちば) 神社・寺院・史跡・城址 熊野神社・八幡神社・大光院 (真言宗豊山派)
 江戸期は二日市場村。字本郷に二日市場廃寺跡がある。
 地名の由来は、毎月二日に三斎市が開かれたことに由来する。三斎¹⁸
 市とは、ひと月に3回市を開いたことで
 二日市場は二日、十二日、二十二日に市が開かれていた。



二日市場八幡神社の本殿の社

八幡神社 (はちまんじんじゃ)
 所在地 市原市二日市場字唐濯谷839番地
 創建時期 不詳
 祭神 誉田別命
 宮司 露崎 のり子
 由緒・伝説 通称八幡さま。明治に入って無格社となった。
 熊野神社に合祀されている。



境内入口の鳥居と奥に本殿



本殿を左側より写す

熊野神社 (くまのじんじゃ)

所在地 市原市二日市場字熊野越602番地
 創建時期 不詳
 祭神 伊弉册命・速玉男命・事解男命
 (現在は伊弉諾命も含む)
 宮司 露崎 のり子
 由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒不詳。境内に
 八幡神社(誉田別命)・火防神社(火産霊命)
 琴平神社(大己貴命)・天神宮がある。



二日市場熊野神社の拝殿正面



熊野神社の本殿と青銅製燈籠



拝殿入口掲げられる扁額



参道入り口の鳥居

智光山大光院無量寺 (ちこうさんだいこういんむりょうじ) 真言宗豊山派

所在地 市原市二日市場475番地
 創建時期 江戸期以前か
 本尊 不詳
 住職 金子 研一
 由緒・伝承 江戸期かそれ以前に建立されていたと
 思われる。市原郡四国八十八か所霊場
 の26番札所となっている。

大光院の本堂正面



参道入り口にある門柱



参道入口左には地蔵の石仏



参道の右側にある如来石仏

松崎 (まつぎき) 神社・寺院・史跡・文化財・城址 春日神社・神照寺(真言宗豊山派)

室町期に松さきの地名があった。江戸期は松崎村。磯ヶ谷村から分村したと言うが未詳。
 地名の由来は、「ま(間)・つ(接続詞)・ぎき(山の先端)」で、谷間に突き出した所という意味。

春日神社 (かすがじんじゃ)

所在地 市原市松崎字宮ノ越859番地
 創建時期 大同元年(806年)
 祭神 天兒屋根命・天武雷命・天照大神
 神紋 下り藤
 宮司 露崎 のり子
 由緒・伝説 旧村社。通称春日さま。大同元年左大将棟梁卿東夷征伐の追討使として関東に下向した際、朝敵退治の為に祈願した大和国三笠山春日四所大明神を当地に勧請したという。昭和54年(1979年)に遷宮境内に天満神社(菅原道真)がある。



松崎神社本殿正面



長い参道の途中に鳥居が



本殿の入口の上にある鹿の彫刻



拝殿内部に本殿の内宮がある



天保15に奉納された狛犬



本殿舞の石燈籠



文化10年に奉納された手水鉢

春日山福寿院神照寺 (かすがさんふくじゅいんしんしょうじ) 真言宗豊山派

所在地 市原市松崎107番地
 創建時期 不詳
 本尊 不詳
 住職 金子 研一
 由緒・伝説 不詳

神照寺の本堂正面



本堂入口の上の扁額



参道途中左には地藏様が



本堂左側を写す

松王山圓成寺 (しょうおうさんえんじょうじ) 日蓮宗

所在地 市原市松崎5番地

創建時期 文化年間

本尊 不詳

住職 堀越 顕秀

由緒・伝説 寺院入口脇に文化8年と刻まれた石碑があり、境内には数寄屋観音像や子安地蔵などが安置されている



圓成寺の本堂全景



本堂入口の松王山と記された扁額



境内の数寄屋観音像



文化8年と刻まれた石碑

山田 (やまだ) 神社・寺院・史跡・城址 山田神社・正覚院(真言宗豊山派)・佛蔵寺(日蓮宗)・山田城
平安期は山田郷。「夜万多」とも書く。江戸期は山田村。
地名の由来は、「山田」は山のある所という意味か。

山田神社 (やまだじんじゃ)

所在地 市原市山田116番地 旧養老村山田字宮の台

創建時期 不詳

祭神 伊弉諾尊・伊弉冉尊

宮司 露崎 のり子

由緒・伝説 旧村社。伊勢より勧請されたという。明治32年(1898年)富士獄神社を合祀。

境内に子安神社(木花咲屋姫命)がある。



山田神社の拝殿の正面



境内入口の鳥居



山田神社の本殿の社



子安神社の社の建物



浅間大神の祠と入口の鳥居



浅間大神の石の祠



多くの神社を合祀し祠群

神光山正覚院慈眼寺 (しんこうさんしょうかくいんじげんじ)

真言宗豊山派

市原市山田290番地

創建時期 室町時代

本尊 不詳

住職 金子 研一

由緒・伝説 慈眼寺は墓石や仏像などから室町時代に創建

されたと思われます。本尊は薬師如来立像が

安置されていたが、江戸時代中期にこの地に疫病が蔓延した折に本尊を阿弥陀如来に加え

た。市原郡四国八十八か所霊場の25番札所となっている。明治新政府の「学校制度」に

より山田小学校が開校され、教育の場としても貢献された。



正覚院の本堂全景



境内入口の山門と奥に本堂



正覚院と書かれた扁額



寺院の再建の記念碑

法性山佛蔵寺 (ほうしょうさんぶつぞうじ) 日蓮宗

所在地 市原市山田290番地

創建時期 寛永2年(1625年)

本尊 不詳

住職 石川 浩徳

由緒・伝説 寛永2年に開創された日蓮宗寺院です。

境内には本堂を始め、鐘楼や宝塔などが建てられている。



佛蔵寺の本堂全景



入口にある題目を記した石柱



五重の宝塔



境内に建立されている鐘楼

山田城跡

所在地 市原市山田

築城時期 不明

築城主 地元の土豪か

説明 山田城は、小湊鉄道の山田駅から800m程西南の国道297号線のすぐ西側にあったと言われている。この辺りの宅地周辺には、正覚院や佛蔵寺という寺院があり、土塁らしい土手がいくつか残っているが、確実に城郭的遺構かどうかは確認できない。
築城主は、地元の土豪層の居館と思われる。

本資料は、次の資料を参考に作成しました。

- ・市原市埋蔵文化財センター遺跡ファイル
- ・ちょっと便利帳（日本の元号・年代早見表）
- ・全国遺跡報告総覧
- ・日本の城郭・城址（千葉県版）
- ・八百万の神
- ・市原市・宗教法人一覧
- ・かずさ国府はどこ？
- ・市原の城郭と国府跡をたずねて
- ・Wikipedia- 市原郡
- ・市原市歴史と文化財シリーズ
- ・そのほかに、紹介した寺院・神社の関係者の方々の協力を頂きました。

三和地区の地名の由来と史跡と文化財

発行・編集 市原の歴史を知る会

住所 市原市能満1020番地1

連絡先 090-3545-1113